

# 港町油津の歴史的環境保全に向けた 記憶遺産継承ツール作成

金井 凌介<sup>1</sup>・永村 景子<sup>2</sup>

<sup>1</sup>学生会員 法政大学大学院デザイン工学研究科 (〒162-0843 東京都新宿区市谷田町 2-33)

E-mail:ryosuke.kanai.5z@stu.hosei.ac.jp

<sup>2</sup>正会員 日本大学生産工学部環境安全工学科 専任講師 (〒275-8575 千葉県習志野市泉町 1-2-1)

E-mail:nagamura.keiko@nihon-u.ac.jp

わが国の地方都市は、人口減少、少子高齢化に直面している。それに伴い、地域の歴史や文化を受け継ぐ人材が減り、地域が有する環境と共生してきた痕跡が消失している。宮崎県日南市油津地区は、こうした課題を抱える地域である。地域産業や人々の暮らしの変遷、それに応じて変化したまちなみなど、近代の油津の地域環境の履歴を示す歴史的な史料が多数、日南市教育委員会に収集・保管されているが、十分な整理と活用ができていない。本研究では、古地図や古写真を用いて、油津のまちなみの系譜を調査し、時間的・空間的に整理・把握するだけでなく、失われつつある地域の記憶の掘り起こしや、地域に関する様々な記憶情報を記録、次世代に継承できる記憶遺産継承ツールを作成した。

**Key Words : Memory Heritage, Memory inheritance, Oral history, Old Photos, Tool**

## 1. はじめに

### (1)研究の背景と目的

宮崎県日南市油津地区(以下、油津)は江戸時代以来、木材の積出しやマグロの漁業基地など、漁業と商業で発展してきた港町である。その港町を支えた堀川運河は、油津港まで舢舨の運搬を効率的に行うため、江戸時代前期に整備された。昭和 60 年代には一度、運河の埋め立てが計画されたものの、市民の保存運動により保存、再整備が実施され、堀川運河は国内で初めて国有形文化財に登録されている。また油津赤レンガ館は、市民 31 人による買取り保存により競売の危機を回避、市へ寄付されて保存修理され、こちらも国有形文化財に登録されている。このように油津では地区住民による歴史的環境保全に係る市民活動が、予てより非常に活発であった。こうした歴史的環境の保全事業を経た後、中心市街地活性化事業が実施された。商店街を中心とした賑わい再生が見事に成り、2017(平成 29)年 3 月、完了した。この中心市街地活性化事業を契機として、油津地域協議会では 2014(平成 26)年度から回遊プログラム「港町油津 “へえ〜” “ほお〜” まちあるき」に取組んでいる。

当該回遊プログラムは、単に歴史の伝達・継承、地域の魅力発信を行うのみならず、①油津のまちが作ってき

た「まちの記憶・記録の継承」とする、②取り組む中で世代間交流を生み出し、コミュニティを醸成させる、③地域への愛着など結果的に地域活性化の取組みとなる、の 3 点をねらいとし、これまで 5 年間、計 11 回実施されている。最近では地元小学校との連携により、年 2 回の開催のうち 1 回は小学生が油津の歴史的環境を解説・案内するプログラムが実施されている。

こうした市民の取組みと併行して、地域産業や人々の暮らしの変遷、それに応じて変化したまちなみなど、近代の油津の地域環境の履歴を示す歴史的な史料が多数、日南市教育委員会(以下、市教委)に収集・保管されているが、十分な整理と活用ができていない。さらに長年、史料の収集・保管に携わっていた職員の定年退職に伴い、貴重な資料が「お蔵入り」する可能性が生じていた。

これに対し筆者らは、これらの史料を市民の目に触れる機会を増やすこと、市民が活用しやすい状態に整理することで、史料の活用と市民活動の発展、さらには油津の歴史的環境保全につながると考えている。そこで本研究では保管されている史料のうち、古地図や古写真を用いて、油津のまちなみの系譜を時間的・空間的に整理し、地域の方々が利用しやすく、また地域に関する様々な記憶情報を記録できるツールの作成を目的とする。具体的には、史料の整理、現地踏査を行い、油津のまちなみの

系譜を分析・考察し、市民の目に触れやすく、活用しやすいツールの作成をする。本ツールは、地域の方々の記憶の引き出しを助け、その情報を記録できるようにし、多くの方々に共有、次世代に継承できるものを企図しており、本研究では「記憶遺産継承ツール」とよぶこととする。

## (2)研究対象地域

油津は、宮崎県日南市の東部に位置する。油津地区は人口 5,690 人、地域面積 585.0ha<sup>2</sup>、平成 22 年時点人口の年代分布は過半数が 55 歳以上である地域である<sup>3</sup>、油津港は東側と西側を峰と山にかこまれた天然の良港として知られており、漁業が盛んである。昭和初期にはマグロ景気に沸き、国から重要港湾指定を受けるなど油津の歴史において重要な港である<sup>4</sup>（写真-1）。飢肥藩の財政を支えてきた飢肥杉を輸出するために油津港まで運搬していた歴史がある<sup>5</sup>。その運搬に利用していたルートに堀川運河があり、油津を陰から支えていた（写真-2）。

## 2. 既往研究と本研究の位置づけ

「記憶遺産」との文言は、ユネスコが実施する「Memory of the World」の訳語として我が国での導入当初、用いられた<sup>6</sup>。「記憶遺産」の文言に忠実に従えば、意図的に何かを「文書化」や「記録」したものであり、その記録自体を指す。一方、本研究では「記憶遺産」は記録のみならず、地域住民が有している曖昧な記憶の中にも歴史的環境を顕在化するための手掛かりが存在すると考えている。そこで、失われつつある地域の記憶を掘り起こし、記録、保存し、さらにはその情報を市民活動にて活用することを通し、次世代に継承することを「記憶遺産の継承」と考える。

歴史的環境保全の既往研究は、佐藤<sup>7</sup>らによる観光資源保護調査を対象とした地域遺産の活用に関する研究がある。歴史的景観、古写真を用いた景観分析に関する既往研究は、宮脇<sup>8</sup>らによる愛媛県の愛南町外泊地区を対象に石垣に注目し、古写真を用いて歴史的景観の分析がある。記憶遺産（オーラル・ヒストリー）の研究は、矢ヶ崎<sup>9</sup>らが宮城県気仙沼市唐桑町舞根地区を対象に東日本大震災前の記憶と地域のイメージを明らかにしたほか、鈴木<sup>10</sup>ら愛知県一宮市葉栗郡を対象とし地図を用いて地域の記憶を引き出すための記録し、閲覧できるようにしている。地域の記憶をツールを用いて次世代に継承することを目的に行われた研究は、原<sup>11</sup>の大阪を対象にクラウド GIS を用いて行われた研究がある。

本研究は油津を対象に、古写真や古地図を用いて、油津のまちなみの系譜を調査し、時間的・空間的に整理す

るだけでなく、記憶遺産継承ツールを複数の手段で作成した点が特徴である。

## 3. 調査・研究方法

本研究は、記憶遺産継承ツールの作成のため、古地図や古写真を現在の地図や写真と比較し、区画や建物の変化を確認することで、油津のまちなみの変化を把握する。また研究は(1)文献史料調査、(2)現地調査、(3)まちなみの系譜に関する分析・考察を実施していく。また研究に用いる資料は表-1の通りである。史料はいずれも、市教委より提供いただいたことを付記しておく。



写真-1 マグロ景気に沸く油津の様子  
(昭和6年 油津商工案内)



写真-2 堀川運河での飢肥杉運搬の様子風景  
(昭和56年 日南市教育委員会提供)

表-1 提供史料一覧

区分	引用元	発行年	史料数
古写真	南日向大観	昭和10年	124
	油津商工案内	昭和6年	72
地図	明治37年陸地測量部	明治37年	1
	油津町全図	大正2年	1
	油津町	昭和2年	1
	油津歴史まちあるきマップ		1
	氏名入地図(飢肥・油津)	昭和33年	25
年表	ゼンリン	平成14年	12
	油津まちづくり年表	平成19年	1
	油津まちづくり年表2	平成19年	1
	日南市歴史資源活用関係年表	平成19年	1
	日南油津まちづくり年表	平成31年	1
その他	にちなんおもしろ学入門	平成29年	1
	油津の街並みと堀川運河	平成9年	1

## (1) 文献史料調査

### ① 史料の整理および油津地区の歴史の把握

対象地域の現況を把握するために、油津の歴史やこれまでの様々な取り組みに関する文献調査を表-1の史料を用いて整理した。

### ② 古写真の場所の特定およびまちなみの比較調査

表-1の古写真の撮影場所の特定を Google Earth や昭和33年、平成14年の地図(図-1、図-2)を用いて、古写真に記載された情報(町名、氏名など)や写真に写る建物、山の形を照らし合わせながら行った。また、まちなみの変化を分析するために、撮影場所を特定した古写真に写る建造物について現在の建造物と比較した。

### ③ 住民の移り変わりに関する調査

図-1、図-2の新旧地図を比較し、油津町内における昭和33年の世帯主と平成14年の世帯主の変化を分析・考察した。比較は、苗字が同じ世帯を継続して住んでいるものとし、調査範囲は油津1丁目から4丁目とした。

## (2) 現地調査

### ① 写真撮影調査

撮影場所を特定した古写真について、現在の写真を撮影した。また、撮影場所が曖昧であった古写真についても、現地で見える景色から、正確な撮影場所を特定した。



図-1 昭和33年氏名入り地図

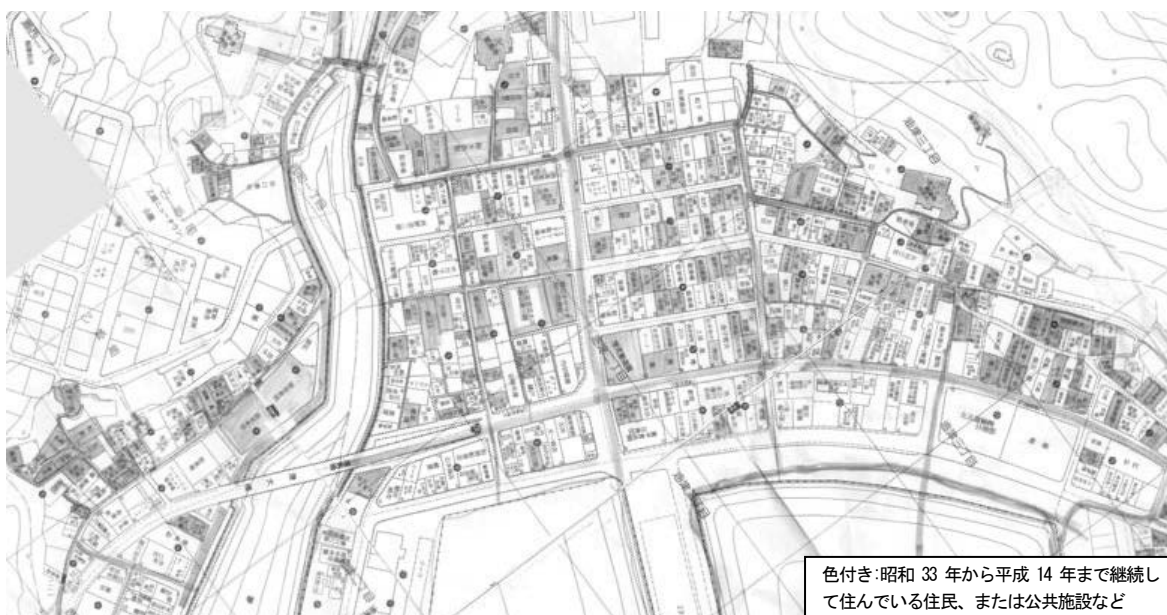


図-2 平成14年地図(ゼンリン)

## ② 聞き取り調査

2019年8月、11月の2回、市教委で長年にわたり史料の収集・管理を担当している岡本武憲氏や、地域の方々にも聞き取り調査を行った。調査は主に、油津の過去の様子や古写真に関する情報、撮影場所の特定ができていない古写真について聞き取りを行った。

## 4. 文献史料調査成果

### (1) 史料の整理および油津地区の歴史

史料整理を行い、油津の変遷をまとめた(表-2)。油津では、江戸時代に飢肥杉輸送のための堀川運河を開削した後、昭和15年前後にはマグロ漁や材木業などで栄え、戦後には重要港湾として指定されるなどした。また昭和52年頃から運河の保存に向けた取り組みをはじめ、油津では多くの保全の取り組みが行われている。

### (2) 古写真の場所の特定と一覧表の作成

古写真216枚のうち、人物写真などを除く84枚の撮影場所を特定し、一覧表にまとめた(表-3)。岡本氏や地

表-2 油津地区年表(一部)

	出来事	資料
貞享3(1686)	飢肥杉の輸送等のため「堀川運河」開削	
明治22(1889)	市町村制施行(油津町7月1日)	
明治32(1899)	港内西側に導流堤	
明治36(1903)	油津堀川運河に石橋堀川橋(乙姫橋)完成	
明治37(1904)		地図(陸地測量部)
明治41(1908)	京屋(渡辺与一)が大坂商船油津荷扱店	
大正2(1913)	宮崎県初の軽便鉄道が飢肥油津間に開通	油津町全図
大正6(1917)	全国で最初の漁港指定を受け港湾整備	
大正10(1921)	杉村金物本赤レンガ倉庫完成	
大正11(1922)	河野宗泰家倉庫(油津赤レンガ館)完成	
昭和2年(1927)		油津町地図
昭和4~16 (1929~1941)	クロマグロ水揚げ東洋一/マグロ音頭	
昭和6(1931)		写真74枚(油津町商工業内)
昭和9(1934)		油津港平面図
昭和10(1935)		油津地図・マグロ水揚げ写真
昭和12(1937)	国鉄が油津まで開通・油津駅(二代目)開業	マグロ水揚げ写真
昭和15頃まで	飢肥杉景気、マグロ景気に沸く	
	沿岸には、貯木場、木材関連施設、造船場等が立ち並ぶ	
昭和16(1941)	国鉄が油津-北郷間開通 材木を油津港へ搬出する貨物支線開業	
昭和20(1945)	油津空襲/第二次世界大戦終戦	油津空襲写真
昭和25(1950)	日南市制施行	写真120枚(南日向大観) 日南市油津地区地図
昭和27(1952)	重要港湾指定	
昭和29(1954)	貿易港指定	
昭和30年代	水運の衰退、堀川運河の水質悪化が進む	
昭和33(1958)	油津港の外堤防が完成	氏名入地図(飢肥・油津)
昭和35(1960)	油津駅-元油津間貨物支線廃止	
昭和49(1974)	大油津港建設促進協議会発足	
	運河の一部を緑地公園化(堀川公園)	
	水質汚濁のため堀川運河一部埋立	
昭和51(1976)	港湾計画改訂(堀川運河埋立、緑地化計画)	
	大油津港建設承認	
昭和52年頃	運河の保存、再生に向けた市民運動が活発になる	
昭和53(1978)	大油津港起工式	

域の方々への聞き取り調査により、特定した古写真も数多くある。一覧表には撮影場所の住所、建造物の住所、緯度経度などを記した。一覧化により古写真の索引アーカイブ史料として保存ができる。また、1930(昭和5)年、1933(昭和33)年、2002(平成14)年、2019(平成31)年の地図上にそれぞれの古写真の撮影場所をマッピングした(図-3)。これにより表-3と併用して、古写真の撮影場所がどこに位置しているのか把握することができる。

表-3 古写真撮影場所(一部)

名称	撮影場所	住所(場所)	建物	住所	緯度	経度	標高(?)
1 油津港ノ一部	日南フェニックスロード				31.5774	131.399	0
2 梅ヶ浜(雀八重)	平野		平野		31.5837	131.4098	0
3 紙園公園	平山2323-30		梅ヶ浜1-8		31.5909	131.4092	0
4 油津町貯木場一部	津の峰				31.58600	131.4054	40
5 油津尋常高等小学校	園田2-11		園田2-11-1		31.59060	131.4023	1
6 吾平津神社	西町茂通り、堀川橋付近		材木町9-10		31.5845	131.4017	5
7 市街地ヨリ見タル港口	油津市宮住宅津の釜団地内 油津1-4-21				31.5847	131.40370	15
8 油津漁業組合ヨリ見タル 港内景	油津2-10				31.5804	131.40200	0
9 油津漁業組合市場屋内 鮎屋閣全景	なし		なし		31.5786	131.3994	0
10 木材商 河京商店	油津1-8-13		油津1-7-13		31.5835	131.4022	3
11 服部別荘	西町茂通り西町1-4付近		西町1-4		31.5826	131.4016	1
12 橋店	220号線油津1-5-23付近		油津1-10-2		31.5837	131.4034	4
13 石油商 河野宗人	わかば通り油津1-9-14付近		油津1-9-13		31.5833	131.4029	4
14 御旅館 鈴木旅館	油津1-6-2		油津1-2-6		31.58390	131.4027	4
15 杉村金物店 杉村富士太郎	220号線油津1-9-8		油津1-6-13		31.5837	131.4033	4
16 川俣本店	油津港入口		油津2-8-6		31.5872	131.4035	2
17 外山医院	マグ口通り油津1-7-10		油津1-9-2		31.5836	131.4026	4
18 乙姫湯 並 温泉 隈本末義	岩崎3-8付近		岩崎3-8		31.5859	131.3995	3
19 久保藤平	乙姫橋上		材木町9-9		31.5845	131.4018	6
20 日州鐵工所			春日町13-3		31.5877	131.4035	1
21 日南第一	油津1-2-12		油津1-1-8		31.5843	131.4021	7
21 日南第一	油津1-2-12		油津1-1-8		31.5843	131.4021	7
22 油津漁業組合事業所	油津2-11		油津2-11		31.5813	131.4021	1
23 材木商 服部右平次商店	220号線春日町3-4		春日町3-5		31.5859	131.403	2
24 日南製函株式会社	瀬貝3-4-18		瀬貝3-4-18		31.5886	131.4046	3
25 佐藤銀蔵	下町通り油津2-4-12		油津2-4-12		31.5835	131.4043	2

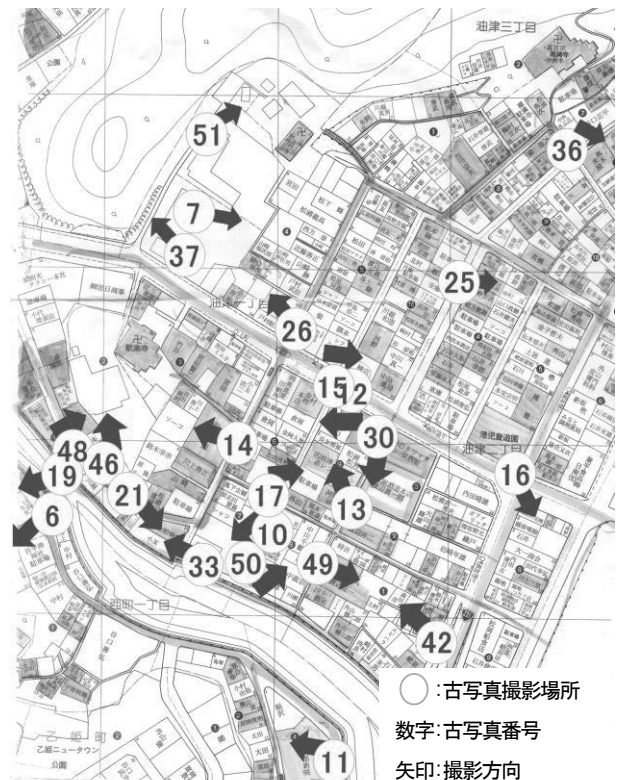


図-3 古写真の撮影場所(平成14年地図)

## 5. まちなみの系譜に関する分析・考察

### (1) まちなみの比較調査

写真撮影調査で撮影した写真を用いて、古写真に写る建造物と現在の建造物を比較することにより、油津の建造物の現状を把握した。古写真に写る建造物の多くは、建て替えが進み、現存しないものも多数ある。しかし、黒木商店(写真-3、写真-4)や杉村金物店のように、古写真の撮影から約90年経った現在も当時の姿を残す建造物は存在している。こういった建造物の多くは現在も所有者が変わっていないことが、昭和33年と平成14年の地図の比較調査により明らかとなった。このことから、油津では、建造物の変化とそこに住む住民の変化は連動しており、住民が継続して住み続けることが建造物の維持に繋がっている傾向が見て取れた。

### (2) 住民の移り変わりの調査

各丁目、番地ごとに昭和33年の世帯数と、昭和33年から平成14年まで継続して住んでいる世帯数を表にまとめた(表-4、表-5)。表-4から油津町全体で25.36%、また1丁目是最も多い29.75%が継続して住んでいることが分かった。対して、1丁目の標準偏差の値が他に比べて大きくなっている。標準偏差の値は、番地ごとの



写真-3 海産物問屋業 黒木清八(油津商工案内)



写真-4 黒木米店(令和元年撮影)

表-4 油津町住民継続率

	昭和33年の 住居数	平成14年も 継続して居住	継続率(%)	標準偏差
1丁目	158	47	29.75	16.52
2丁目	183	44	24.04	14.27
3丁目	221	54	24.43	12.83
4丁目	130	30	23.08	13.74
全体	692	175	25.29	14.87

表-5 油津1丁目住民継続率

番地	昭和33年の 住居数	平成14年も 継続して居住	継続率(%)
1	9	3	33.33
2	18	6	33.33
3	21	9	42.86
4	32	2	6.25
5	23	7	30.43
6	15	4	26.67
7	6	1	16.67
8	11	2	18.18
9	10	4	40.00
10	13	9	69.23

継続して住んでいる住民数の率(以下、継続率)のばらつきを表しており、1丁目では、番地ごとの継続率に大きなばらつきがあったことになる。1丁目内の継続率の低い番地(4番地や7番地など)について、これらの地域を古写真と比べると、4番地は油津町役場や油津郵便局などの公共施設が多くあったエリア、河宗商店や鈴木旅館など商業が盛んだったエリアであることがわかった。現在、このエリアで商店は少ないことから、低い継続率には、商業の衰退が関係していると思われる。また、同様に2丁目と3丁目においても、油津港に隣接するエリアで多くの住民が移転している傾向が見られた。このエリアでは、大阪商船株式会社などの漁業関連施設や商店が多く無くなっていることから、これは漁業の衰退が関係していると思われる。

ここまでの4章、5章では、古写真の撮影場所や情報をまとめ、油津のまちなみの系譜について調査してきた。古写真や住民の移り変わりの調査から、油津の建造物の現状や、油津町内の商業が盛んだったエリア、漁業関連施設が多く立ち並んだエリアが明らかになり、明治から昭和の油津の繁栄と衰退が明らかになった。この成果をふまえ、6章は記憶遺産ツールの検討・作成について記す。

## 6. 記憶遺産継承ツールの作成

本研究では史料を単にアーカイブ化するのみでなく、市民の目に触れやすく、活用しやすい「記憶遺産継承ツール」として作成した。本ツールは、5章までの調査成果を有効活用し、地域の方々だけが知る油津の様々な記憶を引き出し、多くの方々に共有でき、また次世代への継承につながるようなツールの作成をした。

### (1)カルテの作成

撮影場所を特定した古写真について、古写真ごとに撮影場所などの特定や現在の写真の撮影、地域の方々から

聞き取り調査で得た過去の出来事や情報をカルテにまとめた(図-4、図-5)。カルテにまとめた情報は、昭和初期の油津の風景と令和元年の風景の比較のみならず、記録として保存できる。また、カルテは Excel ファイルで作成しているため、今後新たに得た情報を積み重ねて加えていくことができる。カルテの作成により、古写真から、地域住民が、写真に写る風景や建造物に関する様々な記憶を甦らせ、語りやすくなることが期待できる。

### (2)Google マイマップへの記録

古写真の撮影場所を Google マイマップに記録した(図-6)。Google マイマップはスマートフォンやPC、タブ

6	吾平津神社	
視点場住所	西町筏通り堀川橋付近	
建物住所	材木町9-10	
緯度	31.58451	経度 131.40169
標高	5m	視点場向き ←
備考	古写真は昭和6年 現写真は令和1年11月16日撮影	

図-4 古写真カルテ(油津商工業案内7番)

12	横店	
視点場住所	220号線油津1-5-23付近	
建物住所	油津1-10-25	
緯度	31.58374	経度 131.40336
標高	4m	視点場向き →
備考	古写真は昭和6年 現写真は令和1年11月15日撮影	

図-5 古写真カルテ(油津商工業案内12番)



図-6 Google マイマップ

レット等で閲覧できることから、現地に住む人だけでなく、不特定多数の人が地図上で古写真を見ることができ、さらに GPS による位置情報を用いて、現地を歩きながら古写真と現在の風景を同時に見比べることができる。Google マイマップへの記録により、地域住民が地図を見ながら当時の風景を思い出したり、当時を知らない人が油津について知ることも期待できる。

## 7. 記憶遺産継承ツール活用の試行

今回我々が作成したカルテ(視点場地図や一覧表を含む)、Google マイマップからなる記憶遺産継承ツールを油津地域協議会、日南市教委へ提供するとともに、利用方法や今後に向けた活用法などを、実際に見て、操作していただきながら話し合った。また、カルテや Google マイマップと古地図を見比べることで、当時を思い出し、この場所に建物があつたなど、史料にも残っていない新たな情報をお話していただいた。

油津地域協議会の「港町油津 “へえ～” “ほお～” まちあるき」プロジェクトメンバーに、実際にツールを



写真-5 Google マイマップで古写真を見ている様子



写真-5 カルテから古地図で場所を探す様子

使って頂いた際、高齢のメンバーから、古地図を見ながら「ここに〇〇があつた」や「ここが今の〇〇だ」など古地図に興味を示していた。また、カルテを見ていた際には、「いつ建物が無くなつた」などより具体的な情報が引き出された。一方、高齢のメンバーは Google マイマップにあまり興味を示していなかつた。Google マイマップはスマートフォンや PC などになじみの薄い世代には、使いづらかつたと推察される。このことから、今後、記憶遺産継承ツールの活用方法として、地域住民の記憶を引き出す折は、カルテと古地図を並行して用いるのが有効であると確認できた。

一方の Google マイマップは、まち歩きプロジェクトの事務局を務める 40 代のメンバーらが、自身のスマートフォンで閲覧するなど、興味を示していた。まち歩き参加者や、まち歩きプログラムに参画する小学生が学習する際に、まちを巡る折に、スマートフォンやタブレットなどで現地情報を確認するためのツールとしての活用が期待できる。

これらのことから、記憶遺産継承ツールは、地域の方々への記憶の引き出しや実際のまち歩きに有効なツールとして整備できたといえる。

## 8. おわりに

本研究では、油津の歴史や取り組みの把握、古写真の撮影場所の特定、油津のまちなみの系譜を調査し、古写真のカルテなど記憶遺産継承ツールを作成した。

今回の調査で扱えなかつた多くの古写真の撮影場所の特定が進めば、地域住民の記憶を引き出し新たな情報を得ることにつながると考えられる。さらに今回作成した記憶遺産継承ツールを、まち歩きや学習教材などとして活用できるよう、改善・更新を図っていく必要がある。

また地域の高齢化を背景として、油津の隆盛期を知る昭和一桁世代の記憶を引き出し、記録できる時間は限られている。記憶遺産継承ツールを活用して、地域住民へのヒアリング調査やワークショップを実施し、より効率的・効果的に記憶を引き出し、記録し、記憶遺産継承ツールへ更新していくことも、課題であるといえる。

**謝辞：** 本研究を進めるに当たり、日南市教育委員会の岡本様、UMK テレビ宮崎 川床様、油津地域協議会の皆様に多大なるご協力をいただきました。記して誠意を表します。

## 参考文献および注釈：

- 1) 倉岡 宏宜ほか：「土木遺産保存運動後の市民活動の促進-日南市堀川運河周辺における油津地域協議会による回遊プログラムの試行報告-」，土木史研究講演集 vol.35, pp.219-222, 2015.
- 2) 日南市役所地域振興課まちづくり係：日南市都市計画マスタープラン，p.24, 2014.
- 3) 前項 2) pp.6-7.
- 4) 日南市産業活性化協議会：「油津」其の二 海と光と風の地名録，pp.12-13, 2010.
- 5) 日南市教育委員会：にちなんおもしろ学入門，p.38, p.43, p.75, 2017.
- 6) 文部科学省のホームページでは 2015(平成 27)年度まで「ユネスコ記憶遺産選考委員会」という文言を確認することができる。
- 7) 佐藤 宏樹, 松井 大輔：歴史的まちづくりにおける地域遺産調査の活用に関する研究:日本ナショナルトラストによる観光資源保護調査を対象として, 都市計画論文集, Vol.54, No.3, pp.953-959, 2019.
- 8) 宮脇 勝, 鎌田 祥史：古写真を用いた歴史的景観の観察方法に関する研究:愛南町外泊地区の石垣の文化的景観キャラクターライゼーション, 都市計画論文集, Vol.51, No.3, pp.320-327, 2016.
- 9) 矢ヶ崎 太洋, 一ノ瀬 友博：オーラルヒストリーの収集と分析による東日本大震災以前の記憶と地域のイメージ: - 宮城県気仙沼市唐桑町舞根地区の事例 -, 農村計画学会誌, Vol.32(Special\_Issue), No.0, pp.209-214, 2013.
- 10) 鈴木 宣也, 蛭澤 法子：地域の記憶を引き出すための記録・閲覧の研究と実践，日本デザイン学会研究発表大会概要集, Vol.63, p.122, 2016.
- 11) 原 雄一：大阪 24 区・街の記憶の痕跡に関する研究，日本地理学会発表要旨集, Vol. 2020s, p.213, 2020.

(2020. 4. 20 受付)